

賛助会員功労賞

日本色彩学会賛助会員功労賞を受賞して

On receiving the Award from the Color Science Association of Japan

赤木 重文
Shigefumi Akagi一般財団法人日本色彩研究所
Japan Color Research Institute

この度は日本色彩学会の賛助会員功労賞をいただき誠にありがとうございます。

いきなり私自身の思い出の話になり恐縮ですが、色彩学会との出会いは、今から遡ること50年弱ということになるでしょうか。その当時、日本色彩研究所の本部の事務所は西麻布にあり、最寄りの駅は六本木でした。現在、そのビルは改修工事により外観の様相を変えています。今でも健在です。当時は賃貸物件のそのビルのワンフロア3室を借りていました。各階とも六本木通り沿いに室外ベランダがあり、各室をつなぐ構造になっていましたが、一番奥の1室に、色彩学会のデスクが置かれ、私と同年代の女性が事務局員として執務されていました。日本色彩学会の事務局が弊所に置かれていた時代の話です。

その当時は、色彩研究所の会議室で頻繁に様々な集まりがあり、色彩に関係する先生方がお集まりになっていました。色彩研究所の先輩方も色彩学会にお集まりになる先生方も色彩研究の分野では名だたる人たちがばかりだったので、今思うととても貴重な体験をさせて頂きました。当時の色彩研究所を取り巻く環境には空気感の違うような雰囲気が漂っていたように思います。

日本色彩研究所はもうすぐ創立100周年を迎えます。財団法人として改組しておおよそ80年になりますが、創立当初も改組の後にも色に託す思いに共通したものがああります。いずれも公益性の強い事業の民間による推進が求められた時代で、色の公共性に逸早く気づいた創始者の見識が設立のキッカケとなり、良好な色彩環境形成に向けた具体的な活動から色彩文化の保存・育成という啓蒙的教育活動まで、無形の財を積み上げていこうという姿勢に、弊所の設立のモチベーションが読み取れます。

そして、色彩の研究は学際的です。弊所においても色彩環境形成や色彩文化の育成の前に、その礎となる色彩の標準化や管理手法に関する開発が成果を残しています。



左：織物による日本最初の色見本集。日本標準色カード500
1929年日本標準色協会発行。(当協会は日本色彩研究所の前身。)
右：JIS標準色票2023年第9版第4刷発行。色数は1,821色。

弊所スタッフの専門分野は多岐にわたっていますが、大きくは色彩工学系と調査・設計系の2つの研究室で業務を遂行してきました。最近求められる企業からのソリューション業務は異分野のスタッフが共同で取り組む案件が増えています。色彩学会の会員のジャンルは我々の比ではありません。今後の企業ニーズを想定すると御学会とのコラボが強く望まれるところではあります。

さらにこれからは従来の枠や手法にこだわらず、新しい課題に対して歩を進めていかねばなりません。弊所では中・長期研究計画として、「感覚多様性における色彩コミュニケーション研究(仮称)」を新しい研究課題として取り組む企画を打ち出しています。広い意味でのフィールドスタディですが、このような新たな計画を実行していくためには、スタッフのつよいモチベーションが必要になります。

このモチベーションの一つとして、よく自己実現という目標があげられますが、重要なのはその内容です。世界の指導者を俯瞰すると、自己実現のために世界を混乱に陥れているケースも見られます。立場の違う人にも思いを寄せ、人類の公益性・公共性を模索していく活動が求められています。本研究テーマには、このような思いが込められています。

日本色彩研究所創設の原点に立ち返った目標を掲げ、今後も活動を続けていきたいと思っております。今後の末永いお付き合いをよろしくお願い致します。